

令和4年度

上市町教育委員会事務管理執行状況等点検評価報告書

上市町教育委員会

## 目 次

令和4年度教育委員会活動状況	1
1 委員選任状況	
2 会議開催状況	
(1) 会議開催数	
(2) 付議案件数	
(3) 会議に付された主な案件	
(4) 視察等	
評価総括表	2
不登校児童・生徒相談支援	10
小学校外国語活動の推進	11
教員の働き方改革の推進	12
放課後こども教室の充実	13
公民館の充実	14
史跡上市黒川遺跡群保存整備事業の推進	15
「スポーツ・イン・ライフ」の実践	16
生涯に渡りスポーツを楽しむ環境の整備	17
スポーツ設備の整備	18

1 委員等選任状況

職	氏名	年齢	性別	元教諭	任期	通算在任年数	役職任期及び通算在任年数	常勤・非常勤の別	保護者
教育長	牧田 康博	65	男	○	R3.4.1~ R6.3.31	1年11月	教育長: R3.4.1~ (1年11月)	常勤	
教育長職務代理者	堀田 基文	52	男		R2.10.1~ R6.9.30 (H28.10.1~ R2.9.30) (H24.10.1~ H28.9.30)	10年5月	委員長: H26.10.1~H27.3.31 (6月) 委員長職務代理者: H25.10.1~H26.9.30 (1年) 教育長職務代理者: H27.4.1~H27.9.30 (6月) R2.10.1~(2年5月)	非常勤	
委員	高島 善与	68	男	○	R1.10.1~ R5.9.30 (H29.10.1~ R1.9.30)	5年5月		非常勤	
委員	碓井三恵子	47	女	○	R2.10.1~ R6.9.30	2年5月		非常勤	○
委員	郷田 千秋	65	女	○	R3.10.1~ R7.9.30	1年5月		非常勤	

2 会議開催状況

(1) 会議開催数

定例会	12回
臨時会	0回

(2) 付議案件数

議案	23
報告事項	18
請願	0
その他	15
計	56

(3) 会議に付された主な案件

- ・ 社会教育委員会からの答申について
- ・ 教職員の働き方改革について
- ・ 令和5年度上市町教育目標及び学校教育基本方針決定の件
- ・ 社会教育委員委嘱の件
- ・ 小学校のあり方に対する意見について
- ・ 上市町立学校職員服務規程の一部改正について

このほか、町議会に提出される予定の議案に対する意見について付された。

(4) 視察等

学校訪問	7
先進地視察	0
県・地方教委研修	2
計	9

先進地視察 : 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止

県・地方教委研修 : 県内各教育委員会(富山県市町村教育委員会連合会)

### 3 評価総括表（令和4年度事業）

重 点 目 標	担 当 班
主な事業	
不登校児童・生徒相談支援	学校教育班
小学校外国語活動の推進	学校教育班
教員の働き方改革の推進	学校教育班
放課後子ども教室の充実	生涯学習班
公民館の充実	生涯学習班
史跡上市黒川遺跡群保存整備事業の推進	生涯学習班
「スポーツ・イン・ライフ」の実践	生涯スポーツ班
生涯に渡りスポーツを楽しむ環境の整備	生涯スポーツ班
スポーツ施設の整備	生涯スポーツ班

## 成果・効果

### [ 学校教育 ]

「心身ともにたくましく心豊かに生き抜く児童・生徒を育てる。」「創造性に満ち、主体的に学び続ける意欲・態度・能力を持った児童・生徒を育てる。」を指導方針に掲げ、保護者と地域、学校が連携して子育てを行う教育を目指している。

小中各校のグラウンド整備を含めた今後の大規模修繕等の計画については、小学校のあり方についての方向性等の動向も見据えながら、当面、取り留めておく。

各学校においては、児童・生徒一人ひとりの個性を尊重し、基礎基本を定着させる教育の充実を教育行政の取り組みの基本として進めている。

I C Tに対応した学習環境を学校現場において有効に活用されるように、今年度もI C T支援員を2名配置した。授業計画の作成支援、I C T機器の準備・操作支援、校務支援システムの活用支援などを行っている。

小学校の外国語については、中学校への連携を図るため、外国語活動研修にて小学校と中学校の教師及びALTや外国語指導助手に参加してもらい、現状や課題の共有を行った。

不登校・いじめへの対応については、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの活用も含め、早期対応と支援に努めている。不登校については、教室外登校の児童生徒も多くいることから、今後も、小中の連携構築を図るとともに、一人ひとりへのカウンセリングや家庭への支援も含め、自己肯定感を培う、粘り強い継続した取り組みが必要である。また、今年度から適応指導教室に相談指導員として教員OBを配置し、生活面だけでなく学習面についても支援している。いじめについては、各学校での積極的な認知を呼びかけてきたことから、件数が増加しているが、いじめの捉え方など教職員の認識に変化が出始め、早期の発見・対応につながってきている。

また、特別な支援を要する児童の学校生活を支援するため、全小中学校にスタディ・メイトを配置しており、その効果は大きい。また、今年度から学習支援員として教員OBを配置した。学校の派遣要望に対応するため、引き続き人材及び財源の確保に努める必要がある。さらに、障がいを早期に発見することにより、適切な療育・教育機会の提供が行えるよう、町教育センターに発達障害支援アドバイザーを配置している。発達障害支援アドバイザーを中心に、学校や保育所などの関係機関が連携し、支援を進めてきたことにより、保護者の方々や関係者の通級指導教室も含めた特別支援教育への理解が深まっている。また、教育支援員を配置し、各小中学校からの要望に応じた教育支援を行っている。

コロナ禍の中、通学路の安全点検については、今年度も実施することができた。中学校の修学旅行や、「ふるさと学習」などの課外活動、運動会や学習発表会などの学校行事は感染対策をしながら実施している。

地域の協力を得ながら「地域とともにある学校」という観点を第一義に捉えた魅力あふれる学校づくりを引き続き進めていく。

教員の働き方改革については、今年度は、水泳指導の補助や教室のワックスがけなどを業務委託し、教員の負軽減を図った。また、部活動の地域移行などにより中学校での教員の負担軽減に取り組んだ。さらに、給食について、町独自の公会計化を進め、学校事務の負担軽減につなげた。

これからの子どもたちにとって必要とされる教育環境を整備することを目的に、当面の教育的課題と小中

学校のあり方について教育委員会で検討を進めてきた。検討の結果、将来的に町内小中学校を義務教育学校1校に統合することを町長に提案した。来年度、上市町学校教育審議会を設置し、審議を進めていくこととなる。

#### [ 生涯学習 ]

人々に学ぶ喜びや感動を与え、達成感・生きがいをもたらす生涯学習の推進に取り組んでいる。

各公民館においては、公民館職員自らが企画する公民講座、行事の開催や、地域の諸活動の拠点として、地域住民に利用される施設を目指している。しかし、昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、年度当初から活動時における感染対策に関する統一基準を守りながらの公民館活動となった。不特定多数が参加する行事の中止、地域活動や各種団体の利用時においても、飲食を伴った利用の自粛など、従来からの活動からの縮小を依頼することとなった。しかし、コロナ禍であっても可能な範囲での公民館活動を実施することを念頭に、基本的な感染症対策を実施した上で、参加者名簿の作成、参加者の人数制限、飲食物の完全テイクアウト化など、各行事に応じた必要な対策を実施した上で行事等を開催した。公民館の活動周知、公民館講座受講者の成果発表の場として例年2月末に北アルプス文化センターで開催している公民館文化交流フェスティバルは、コロナ禍により一昨年から開催を見合わせていたが、地域での感染状況が落ち着きを見せていることから今年3年ぶりに開催し、約400名の来館者を迎えることができた。今後はウィズコロナの状況のもと、地域での感染状況を注視しながら公民館活動の推進に努めたい。

また、「ふるさと町民学園」は、受講者が楽しく集い、共に学ぶことを大切にしながら30年以上事業を実施しているが、新型コロナウイルスの影響により開催回数は例年より少なく6回となった。しかし、密を避けるため3日に分けて同じ講座を実施したり、例年と同程度の内容を盛り込むため1日3講座を実施したりすることで、昨年度よりも600名以上多い、延べ1,962名の受講があった。

小・中学校や公民館で実施している放課後子ども教室については、コロナ禍での開催が今年度も継続したこと等から、予定していた回数を企画できなかった教室もあり、昨年度より延べ参加人数は減少した。

「史跡 上市黒川遺跡群」の保存整備に関しては、平成24年度に策定した「整備活用基本計画」にある整備・活用の方向性に沿って、平成26年度に測量・基本設計と段階的に事業を進め、平成28年度より本格的に保存整備に着手したところである。

今年度は既設四阿・水飲み等の撤去、学習広場整備（盛土・給水設備設置等）、園路整備（舗装・擬木柵設置等）などを実施した。

#### [ 生涯スポーツ ]

生涯スポーツにおける各種イベントの参加者数は、多くの住民がスポーツを実践し、健康づくりや生きがいにつながるよう、そして活力のあるまちづくりを推進していくうえでも、重要なひとつの指標である。今年度は、これまで開催してきた剣健康マラソン大会や駅伝競走大会に代わる新規イベントの実施を計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、やむなく中止とした。新規イベントについては、近年参加者やイベント運営者が微減していることから、町民のニーズに沿ったイベントとなるよう関係団体の意見集約を行った。

町民スキー大会は、前回開催大会より申込者数の減少や大会直前の雪不足があったが、試技数を減らし開催することができた。

読売ジャイアンツやメジャーリーグで投手として活躍した岡島秀樹氏の少年少女野球教室を開催した。実技を通し、小中学生が短時間で質の高い練習について学ぶ機会となった。

スポーツ少年団交流会については4年ぶりの開催となったが、実施競技の見直しを行ったことにより、参加児童が前回より約30人増加した。上市町スポーツ少年団は、その加盟する各種目の団員が種目の垣根を越え交流する取組が特に顕著な功績のあるものと認められ、令和4年度日本スポーツ少年団顕彰表彰（市区町村スポーツ少年団部門）を受けた。

部活動の地域移行については、令和5年度から令和7年度までを改革推進期間とし全国的に取り組みが推進されるものであり、町内においても町地域クラブ推進協議会を立ち上げて町体育協会や各スポーツ団体との協議を進め、2競技において部活動から地域クラブへと移行できた。次年度は、新たに5競技で地域クラブを発足する予定としている。

プレゴールデンエイジ期の幼児、児童を対象に実施する健康運動能力向上支援事業においては、幼児期から継続的に実施することで、運動習慣の定着といった成果が見られるとともに、専門指導者の増員を行ったことで、保育所（園）や小学校教員の指導方法の共有や普段の運動プログラムの効率化といった成果が見られた。運動好きな子供の増加と体力向上という観点から継続して実施していく。

## 問題点

### [ 学校教育 ]

いじめや不登校、その他の学校内での問題行動等については、保護者等の幼少期からの障がいへの理解不足や家庭環境なども影響を与えていることから、福祉部局と連携した取り組みが必要とされ、子ども家庭総合拠点が設置された。幼保・小中も含め、乳幼児期からの包括的な一貫した相談や支援の態勢を、関係機関が共通理解のもと、進めていく必要がある。

また、ICTを活用し、個々にあった学びを進めていくことが重要と考えており、さらなる活用を図るため、引き続きICT支援員の配置や研修内容の充実を図っていく必要がある。

今般の物価高の影響から、子どもたちを取り巻く環境はまだ厳しい状況が続くことが予想され、心のケアや奨学資金の減免などの経済的な支援の充実についての検討が必要となっている。

教職員の働き方改革への視点も十分に踏まえながら、業務内容の改善を図るため、引き続き水泳指導の補助や教室のワックスがけの業務委託を進めていく必要がある。

また、給食費を公会計化したことにより、学校間での献立の差異をなくし、より子どもたちに安定した給食の提供を行うことができる。来年度も給食費の無償化を継続していくこととしたが、食材費が値上がりする中、一層工夫しながら、栄養のある美味しい給食の提供に努めていく必要がある。

小中学校のあり方については、提案した義務教育学校について、来年度に審議会を開催する予定となつて

いることから、各地域や審議会に対して丁寧に説明を行っていく必要がある。

#### [ 生涯学習 ]

「公民館講座」や「ふるさと町民学園」は長年の受講者を中心に一定の参加者を確保してきているが、一部講座のマンネリ化や受講者の固定化が見受けられること、また、人口減少社会に向かう中、地方創生としての地域コミュニティの活性化につなげるために、幅広い世代が参加できるよう、運営形態の見直しなども含め、継続して改善に努める必要がある。

公民館講座、行事等の開催情報は、各公民館で発行している公民館報や町広報等により発信しているが、これまでは公民館利用者間での口コミによって情報伝達されていた面が大きかった。しかし新型コロナウイルス感染症の影響により、公民館活動が制限され、公民館利用者が減少していることから、情報発信の方法について考える必要がある。

各公民館のホームページシステム（とやま公民館学遊ネット）が令和4年度からスマートフォンの画面サイズに合わせた表示が可能となっており、既存のツールを利用した積極的な情報発信を進めるほか、SNSを利用し、若い世代にアピールすることなども重要である。

また、地区公民館に図書館の蔵書が配置されていることは、地域の読書環境充実に関して有益なことであるため、今後はその存在の更なる周知に加え、読んでみたい図書について、利用者から希望を聞くなどしながら、図書館と連携し対応することが重要である。

「史跡 上市黒川遺跡群」の保存整備に関しては、国（文化庁）の補助金が要望額を大きく下回る状況が続いているため工事の発注がこま切れとなっており、当初の計画に遅れが生じてきている。早期の保存整備工事完了と更なる活用事業の展開を目指し、補助金の獲得に向けた国・県との協議を進める必要がある。

#### [ 生涯スポーツ ]

富山県が実施するスマートフォンアプリを使い散歩を通して運動習慣の定着を図る事業を町ホームページでも紹介した。町は民間事業者と相互連携・協働し地域の諸課題を解決する包括連携協定を締結している。今回、地域スポーツクラブのスポーツイベントで生命保険会社による健康チェックのブースを開設したが、他のスポーツイベントへの拡充や「スポーツ・イン・ライフ」の面からの連携を協議していきたい。

来年度実施予定の新規イベントは、リレーマラソンと健康ウォークを中心に開催する。限られた運営スタッフで大会運営できるようスポーツ振興くじの活用を検討するとともに、家族や友人と一緒に楽しんでもらえるイベントとしていく必要がある。

総合型スポーツクラブに関しては、中学校部活動地域移行における検討会等で各競技協会やクラブチーム等との意見交換などを行い、課題や将来像について共有することができた。今後、持続可能なクラブ運営に向けてさらに連携協力していくことが必要である。これまで剣健康マラソン大会の際に、丸山総合公園内で同時開催していたスポーツまつりを、クラブ事務所があるB&G海洋センター体育館でスポーツフェスタと



銘打ち開催した。子どもたちに人気の常設のトランポリンや新設のクライミングウォールを使い体験してもらうことで総合スポーツクラブが実施している諸教室を知っていただくよい機会となった。今後は、指導面も含め気軽にクライミングを楽しんでもらえる環境づくりが必要である。

部活動地域移行は、スポーツや文化活動の関係団体で構成する「上市町部活動のあり方検討会」を設置し、部活動のあり方について検討を重ね、2つの地域クラブが発足した。地域クラブの指導者の大会引率や施設利用料に一定の助成をしていくが、会計処理や各種登録業務などクラブ運営への支援が必要なことから、地域クラブコーディネーターを配置する必要がある。併せて運動指導者の実技やメンタルにとどまらず、パワーハラスメントやセクシュアルハラスメントの防止などの研修会を企画していく必要がある。地域クラブ化していない部活動においては、スポーツにおける多様な活動の選択肢を残し、専門的な指導が受けられ、充実した中学生生活を過ごせるよう引き続き地域の方の協力や指導者の掘り起こしを図ることが重要である。

体育施設の整備は今後とも適切な維持管理に努め、安全かつ快適に利用できる環境を維持していく必要がある。体育施設の利用者については、各種スポーツ団体を中心に利用者の固定化が見られ、構成員は減少し団体数は微増傾向で推移している。中学部活動の地域移行により体育施設の空き状況はひっ迫しており、今後小学校の統廃合がある場合に体育施設が減少する可能性もある。スポット利用や新規団体へのスポーツを楽しむ機会提供のためにも体育施設の利用者調整を更に図っていく必要がある。

外部学識経験者の意見 (富山大学教育学部教授 笹田 茂樹)

学校・保育所、家庭、地域が一体となって、子どもたち一人ひとりの個性や能力を伸ばすための教育を目指して、きめ細やかな取組が実施されている。

特に、水泳指導の補助や教室のワックスがけなどの業務委託、給食費の公会計化、部活動の地域移行などを推進することで教職員の負担を減らし、喫緊の課題である「教職員の働き方改革」に対応していったことは評価できる。

新型コロナウイルスの影響によって、生涯学習・生涯スポーツの分野では公民館利用者が減少したり、新規イベントが中止になったりと、運営面で難しい部分もあったが、新規企画や広報活動などで幅広い世代が参加できるような工夫も見られた。

評価 (富山大学教育学部教授 笹田 茂樹)

学校教育、生涯学習、生涯スポーツのいずれにおいても、概ね目標は達成されている。

上述したように、新型コロナウイルスの影響を受けながらも、様々な工夫を凝らすことで幅広い世代の町民にとってのより良い学びを実現しようという意欲が全般的に見受けられた。

特に部活動の地域移行に関しては、指導者に対する研修会を開催してハラスメントの防止等に努めているが、今後もこのような取組を継続することで、子どもたちへの教育的配慮ができる地域の指導者を育成することが望まれる。

# 外部学識経験者のプロフィール

富山大学教育学部教授

笹田 茂樹

## 専門分野

教育行政学

## 経歴

- 1982年 慶応義塾大学文学部史学科 卒業  
2001年 神戸大学大学院総合人間科学研究科 (博士前期課程) 人間発達科学専攻 修了 (修士 (学術))  
2007年 神戸大学大学院総合人間科学研究科 (博士後期課程) 人間形成科学専攻 修了 (博士 (学術))
- 1982年 株式会社日本交通公社入社 神戸三宮支店勤務 (1984年まで)  
1986年 兵庫県高等学校社会科教員として採用される。(2009年まで)  
2009年 富山大学人間発達科学部 准教授  
2016年 富山大学人間発達科学部 教授  
2022年 富山大学教育学部 教授

## 主な著書

- 2006年『現代教養論』(共著) (学文社)、  
2009年『リーディングス日本の教育と社会 教師という仕事』(共著) (日本図書センター)  
2010年『地域教育の構想』(共著) (同時代社) など

## 社会活動

- 富山県民生涯学習カレッジ富山地区センター運営会議委員長  
富山市教育委員会事務管理執行状況点検評価委員  
富山市教育振興基本計画懇話会委員 (2019年)  
魚津市教育振興基本計画策定委員会会長 (2014~2015年)

令和4年度 主要事務

担当班	学校教育班	事務の内容	不登校児童・生徒相談支援
目標とする指標	1・2学期の不登校、教室外登校児童・生徒の人数		

1. 目標数値

年度別 き な い 目 標 数 値 等 ( 数 値 化 で 方 向 )	基準年度	基準数値	令和7年度目標	令和4年度末実績	
	令和3年度	不登校、教室外登校児童・生徒の人数(1・2学期)			不登校、教室外登校児童・生徒の人数(1・2学期)
	目標年度	[不登校] 小学校 0名 中学校 19名	0名 10名		7名 9名
	令和7年度	[教室外登校] 小学校 2名 中学校 6名	0名 5名		4名 3名

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
適応指導教室の運営	不登校の児童・生徒が再登校を目指せるよう、上市町適応指導教室に指導員2名を常時配置し、児童・生徒の対応にあたる。
スクールカウンセラーの配置	県教育委員会が全小中学校にスクールカウンセラーを各1名配置し、児童・生徒のカウンセリングにあたる。
スクールソーシャルワーカーの配置	社会福祉士であるスクールソーシャルワーカーを上市中学校、教育センターに配置し、主に不登校の傾向にある児童・生徒やその家庭への働きかけなどの対応にあたる。
子どもと親の相談員の配置	学校生活や家庭生活での子どもや親の不安や困り感に対応するため、今年度より県事業を活用し、相談員を1校に配置し、家庭支援にあたる。
悩みごと相談窓口の設置	学齢期の子どもを持つ保護者に向けた悩みごと相談窓口を上市児童館2階の幼児ことばの教室内に設置。教育センターの発達支援アドバイザーが相談にあたる。

3 令和4年度末実績の点検及び評価

<p>不登校児童・生徒の数は、スクールカウンセラーの配置や町教育センターに配置した発達障害支援アドバイザーを中心に相談・支援体制の充実を図ってきたことから、減少傾向にあった。しかしながら、一昨年度から新型コロナウイルス感染症の影響などのため、家庭環境が悪化している家庭が多く見られる。このため不安を抱え不登校傾向になっているが、特に小学生の不登校が多くなっているように思われる。</p> <p>学校になかなか登校することができない児童・生徒に対しては、子どもと保護者に寄り添ったケアに取り組むことが大切である。学校でも引き続き担任の家庭訪問を含めスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門家と連携を取りつつ、相談・支援していく必要はあるが、児童虐待の状況も考えられるため、福祉部局と連携した家庭支援体制の構築を進めることが求められる。</p> <p>今後も、関係者が一体となって不登校の児童・生徒や保護者をケアしていく必要があるが、不登校の要因の一つであるいじめ等へのより早期からの対応に加え、家庭支援にも取り組んでいくことが必要であることから、昨年度から福祉部局に子ども家庭総合支援拠点が設置されている。また、学齢期の子どもを持つ保護者に向けた悩みごと(不登校など)相談窓口が設置された。</p> <p>引き続き、子どもたちへの心のケアが必要である。</p>
--

令和4年度 主要事務

担当班	学校教育班	事務の内容	小学校外国語活動の推進
目標とする指標	アンケート結果の「とても楽しい」回答率		

1 目標数値

年度別目標数値等(数値化できないものは方向)	基準年度	基準数値	令和7年度目標	令和4年度末実績
	令和3年度	40%	60%	40%
	目標年度			
	令和7年度			

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
外国語指導助手の配置	各小学校に4名配置。英語での会話や発音のモデルとなり、担当教員の授業をサポートする。フォニックス指導を担当する。  小学校外国語活動の指導力向上を促すため、年3回程度開催する。  アルファベットごとの単語をイラストとつなげて子どもたちが覚えやすいように、フォニックスカードを作成する。
外国語指導研修の実施	
フォニックスカードの導入	

3 令和4年度末実績の点検及び評価

<p>外国語教育の目標の一つとして、「英語を聴いて書ける」力を子どもたちに育むことをめざすため、昨年度、小学校3、4年生の外国語活動、5、6年生の外国語科のすべての授業において「フォニックス」を導入した。令和3年度末に児童アンケートを実施し、フォニックス活動が「とても楽しい」「まあまあ楽しい」「あまり楽しくない」「全然楽しくない」の4項目で回答してもらい、約40%の児童が「とても楽しい」と回答した。今後は、外国語指導研修の実施などによりアンケートの「とても楽しい」率を上げていく必要がある。</p>
---

令和4年度 主要事務

担当班	学校教育班	事務の内容	教員の働き方改革の推進
目標とする指標	教員の時間外勤務の削減		

1 目標数値

年度別 き な い 目 標 数 値 等 ( 数 値 化 で 方 向 )	基準年度	基準数値		令和7年度目標		令和4年度末実績	
	令和3年度	教員の時間外勤務時間年間通しての月平均時間		教員の時間外勤務時間年間通しての月平均時間		教員の時間外勤務時間年間通しての月平均時間	
	目標年度	小学校 中学校	35.8時間 65.0時間	小学校 中学校	20時間 50時間	小学校 中学校	25.5時間 40.0時間
	令和7年度						

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
ICT支援員配置事業	ICT支援員を配置し、教員のICT活用を促進し、業務改善につなげる。
留守番電話設置事業	音声ガイダンス対応の留守番電を設置することにより、時間外の間合せ等に備え、時間外対応の軽減につなげる。
地域部活動推進事業	地域の各競技協会、スポーツ少年団、スポーツ指導者等と連携し地域に新しくクラブを設置し、中学校部活動を移行することにより、教員の負担軽減につなげる。

3 令和4年度末実績の点検及び評価

<p>今年度は、プール授業や教室のワックスがけなど教員の負担となっている業務の見直しを行い、業務委託を行うなどして、負担軽減を図った。また、部活動の地域移行などにより中学校での教員の負担軽減に取り組んだ。さらに給食については、町独自の公会計化を進め、学校事務の負担軽減につなげた。今後は、部活動の地域移行をさらに進め、教員の負担軽減につなげたい。</p>
---

令和4年度 主要事務

担当班	生涯学習班	事務の内容	放課後子ども教室の充実
目標とする指標	放課後子ども教室の利用延べ人数		

1 目標数値

年度別 目標数値等 (数値化で 方向)	基準年度	基準数値	令和7年度目標	令和4年度末実績
	令和3年度	放課後子ども教室 利用延べ人数 14,653人	利用延べ人数 14,700人	利用延べ人数(見込み) 11,000人
	目標年度			
	令和7年度			

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
放課後子ども教室推進事業	<p>放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、子どもたちの安全・安心な活動場所を確保し、学習や体力づくり、文化活動などの、体験・交流活動の機会を提供する教室を実施している。</p> <p>また、中学校では、放課後に教員OBや大学生による学習支援を行う教室、各公民館では、子どもたちの居場所づくりとして、工作教室や料理教室などの体験学習を中心に、子どもたちにとってより豊かで有意義な土曜日を実現することを目的とした教室を実施している。</p>

3 令和4年度末実績の点検及び評価

<p>新型コロナウイルス感染症の影響等により、利用延べ人数は昨年度(12,139人)よりも減少する見込である。</p> <p>大学生の指導者確保が困難な教室では、教員OBの指導者を増員したり、体験学習を行っている教室では、参加者が多い時は、同内容の教室を数回に分けて行うなど、各教室ごとに様々な工夫をしながら実施した。</p>
---

令和4年度 主要事務

担当班	生涯学習班	事務の内容	公民館の充実
目標とする指標	公民館講座受講者数		

1 目標数値

年度別目標数値等 (数値化できないものは方向)	基準年度	基準数値	令和7年度目標	令和4年度末実績
	令和3年度	33,976人 講座受講者延べ人数	34,000人/年間	23,000人
	目標年度		170,000人 (R3~R7延べ人数)	講座受講者延べ人数 (見込み)
	令和7年度			

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
公民館講座開催及び行事の実施	各公民館で開催している公民館講座のPRに努めるほか、公民館での行事実施により、町民が公民館を訪れる機会を創出することで公民館を知ってもらうように努め、講座参加者の増加につなげたい。
公民館環境の充実	高齢利用者へ対応するため、必要な公民館へ机、椅子等を整備するほか、必要な施設修繕の実施により館内で快適に過ごすことができるように努めたい。
地域での読書環境の充実	上市図書館の蔵書の一部を地区公民館に配置することにより、読書に親しむ環境が町民の身近な施設で提供できるよう努めたい。

3 令和4年度末実績の点検及び評価

公民館講座、行事等については、各公民館で定期的に作成し世帯に配布している「公民館報」や「広報かみいち」、「ケーブルテレビ」等で紹介しPRしてきたが、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、飲食や発声を伴った講座の開催制限を実施しなければならなくなったことや、行事の中止により公民館への来館者も減少したこと等より、講座参加者の大幅な増加には至っていない。

公民館利用者の高齢化に対応するため、今年度は公民館2箇所(音杉、宮川)にテーブル15台、白萩西部公民館にスタッキングチェア20脚を整備した。

また、主な修繕として、空気清浄機能付きの空調機を公民館2箇所(南加積、相ノ木)に設置した。

さらに、上市図書館の蔵書を公民館3箇所(音杉、南加積、弓庄)に配置しているが、年3回の蔵書入れ替えを実施し、地域の読書環境向上に努めた。

評価: 公民館に関する情報発信について、SNSを活用するなど未利用層へのアプローチに努めたい。

また、必要な備品購入、修繕実施により生涯学習環境の充実にも努めたい。

地域の読書環境の更なる向上のため、上市図書館と連携し、地域の要望に沿った蔵書を公民館に配置できるように努めたい。



令和4年度 主要事務

担当班	生涯学習班	事務の内容	史跡上市黒川遺跡群保存整備事業の推進
目標とする指標	整備活用事業などの推進		

1 目標数値

年度別目標数値等（数値化できないものは方向化で）	基準年度	基準数値	令和7年度目標	令和4年度末実績
	令和3年度	平成18年1月26日 史跡指定	保存整備事業の推進  活用事業の推進	黒川上山墓跡 ・保存整備工事
	目標年度	平成18年3月10日 上市町が管理団体に		
	令和7年度			

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
史跡上市黒川遺跡群保存整備事業	<p>上市黒川遺跡群は、中世の文化・宗教・社会を知る上で、上市町のみならず全国的にも貴重な遺跡として平成18年に国指定史跡となった。これまで保存管理計画の策定（平成19・20年度）、史跡指定地の公有化（平成21～23年度）、整備活用基本計画の策定（平成23・24年度）、整備基本設計（平成25・26年度）と段階的に事業を進め、平成28年度からは国庫補助金・県補助金の交付を受けて保存整備事業に着手している。</p> <p>令和元年度 ・黒川上山墓跡保存整備事業 保存整備工事（保護盛土表面固化舗装 等）</p>

3 令和4年度末実績の点検及び評価

<p>・黒川上山墓跡保存整備事業 今年度は既設四阿・水飲み等の撤去、学習広場整備（盛土・給水設備設置等）、園路整備（舗装・擬木柵設置等）などを実施した。なお、国（文化庁）の補助金が要望額を大きく下回る状況が続いているため工事の発注がこま切れとなっており、当初の計画に遅れが生じてきている。早期の保存整備工事完了と更なる活用事業の展開を目指し、補助金の獲得に向けた国・県との協議を進める必要がある。</p> <p>・活用事業の実施（黒川フェスティバル） 今年度は3年ぶりとなる黒川フェスティバルを開催した。通算第20回となる節目でもあったことから、実行委員会と北アルプス文化センターの共催とし、史跡にも縁の深い探検家の高橋大輔氏を招いて2日間にわたって特別講演会と特別ツアーを実施した。今後は整備の進捗に合わせた多様な事業を創出するなど、更なる周知・活用に努めていく。</p>
---

令和4年度 主要事務

担当班	生涯スポーツ班	事務の内容	「スポーツ・イン・ライフ」の実践
目標とする指標	「スポーツ・イン・ライフ」の実践		

1 目標数値

年度別目標数値等（数値化できないものは方向）	基準年度	基準数値	令和7年度目標	令和4年度末実績
	令和3年度	スポーツ人口、スポーツ団体ともに高齢化・減少化にあり、またスポーツ施設が一時休館するなど利用制限もあった。	スポーツを「する・みる・ささえる」活動を推進する。	ロキテクノ富山の現地応援や岡島氏の野球教室を通し、一流のプレイに触れることができた。
	目標年度		カヌー・キャンプイベントを開催する。	カヌー・キャンプイベントを実施できた。
	令和7年度	三つの間（「時間」「空間」「仲間」）や既成のスポーツに捉われない日常生活の中で自然にスポーツに親しむ「スポーツ・イン・ライフ」の実践	「スポーツ・イン・ライフ」の認識普及	県運動習慣定着事業の啓発と包括連携協定の事業実施

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
生涯スポーツ推進事業	それぞれの興味、関心、ライフステージ等に応じて、「する・みる・ささえる」などの活動を知り、スポーツを日常生活に位置付け、主体的にスポーツを楽しむために、各種スポーツイベントの開催を通じて、町民に広くスポーツに参加する機会を提供する。
野外活動普及事業	運動競技だけでなく身体活動もスポーツであり、最近では散歩や健康体操もスポーツと捉えられている。 上市町の豊かな自然環境を活用し、町民に野外活動を紹介することでスポーツに対する関心と理解を深めていく。
「スポーツ・イン・ライフ」啓発事業	日常生活の中に自然とスポーツが取り込まれている「スポーツ・イン・ライフ」という認識を広め、スポーツをするきっかけづくりを提供する。

3 令和4年度末実績の点検及び評価

生涯スポーツ推進事業	ロキテクノ富山が第93回都市対抗野球大会に出場した。町旗を掲げ上市町代表として戦うことから、応援ツアーを企画する旅行会社の代金の一部を助成するとともに、住民・スポーツ関連団体に現地での応援に参加することを促した。読売ジャイアンツやメジャーリーグで投手として活躍した岡島秀樹氏の少年少女野球教室を開催した。男女小中学生を対象に岡島氏の実技を通して短時間で質の高い練習の実践が重要であるとコーチや子どもたちに訴えた。
野外活動普及事業	感染対策に配慮しカヌー・キャンプイベントを初開催し5家族17名の参加があった。入門者向けのテント設営・宿泊や野外炊飯の体験やカヌーの試乗をしてもらう。また、アクティビティの一つであるSUP(スタンドアップパドルリング)をB&G財団の備品購入助成事業で5台を導入した
「スポーツ・イン・ライフ」啓発事業	富山県が実施する運動習慣定着事業を町HPでも紹介し、毎日あと2千歩多く歩くことを促した。包括連携協定を締結する第一生命保険の協力により、総合スポーツクラブ「さんさん」のスポーツイベントで体脂肪率や握力測定を実施した。

令和4年度 主要事務

担当班	生涯スポーツ班	事務の内容	生涯に渡りスポーツを楽しむ環境の整備
目標とする指標	地域への新規クラブ設置数		

1 目標数値

年度別 き な い 目 標 数 値 等 の 方 向 （ 数 値 化 で	基準年度	基準数値	令和7年度目標	令和4年度末実績
	令和3年度	児童、生徒数の減少に伴い、中学校部活動数の維持が将来困難である。	地域クラブ設置に向け競技協会、スポーツエキスパート、指導員等に地域移行に向けた方針を説明する。	カヌー部と硬式テニス部の2競技を地域クラブへ移行した。
	目標年度			
	令和7年度	地域への新規クラブ設置数 5～10クラブ		

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
地域部活動推進事業	地域の各競技協会、スポーツ少年団、スポーツ指導者等と連携し地域に新しくクラブを設置し、中学校部活動を移行する。地域に活動場所を移行することで、子供たちの活動の場と機会の確保を図る。また、指導者の資質向上や競技団体の活性化を図る。
上市町総合スポーツクラブの充実	上市町総合スポーツクラブとスポーツ関係団体との連携を促進させることで、ガバナンスの強化を促し、指導者の確保やニーズに応じた教室の増加に繋げることで、クラブの認知度を上げ、自立的なクラブ運営を促進する環境を整備する。
健康運動能力向上支援事業	プレ・ゴールデンエイジ期に、各専門指導者を保育園や小学校に派遣することで多様な運動経験を積み、運動能力やコミュニケーション能力の向上を図る。

3 令和4年度末実績の点検及び評価

地域部活動推進事業	今年度は、中学校からカヌー部と硬式テニス部の2競技を地域クラブに移行した。町地域クラブ推進協議会を発足し、持続可能なクラブ運営や環境整備について協議することができた。さらに部活動地域移行を進め、子どもたちが多様な活動選択ができ、豊かな生活につながるよう話し合いを進めていきたい。
上市町総合スポーツクラブの充実	総合スポーツクラブのイベント内容の見直しを図り、全面改修した体育施設や近隣公園に会場を変更して新規スポーツイベントを実施することができた。町体育協会やスポーツ推進委員等とも連携しながら協力関係を構築することができた。町民のニーズを把握し対応していくことで地域からの必要感の向上につなげていきたい。
健康運動能力向上支援事業	5歳～8歳にかけて継続的に運動指導を行うことで、運動習慣の定着が見られたり運動が好きとこたえる子どもの数が増えた。専門指導者による、遊びの中での運動プログラムを実践することで保育所(園)や小学校教員が普段の授業のなかでも効率的な指導を行えるようになった。将来的な運動能力向上につながる指導を継続して進めていきたい。

令和4年度 主要事務

担 当 班	生涯スポーツ班	事務の内容	スポーツ施設の整備
目標とする指標	施設修繕件数と備品整備件数		

1 目標数値

年度別 き な い 目 標 数 値 等 の 方 向 （ 数 値 化 で	基準年度	基準数値	令和7年度目標	令和4年度末実績
	令和3年度	スポーツをする環境の充実 水銀灯照明のLED化	修繕: 5件 備品購入: 2件 LED化: 1施設	修繕: 2件 備品購入: 1件 LED化: 1施設
	目標年度			
	令和7年度	水銀灯照明のLED化 4施設		

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
社会体育施設整備事業	社会体育施設の長寿命化、機能向上やLED電球への置換工事等の環境整備や施設利用者間の利用調整を進めることで施設利用の促進を図る。  グラウンド付属設備(照明設備・防球ネット等)をはじめとする学校開放事業に係る環境整備を行うことや施設利用者間の利用調整を図る。  スポーツ少年団活動場所の整備や提供、スポーツ少年団同士の交流を促進させ、技術の向上だけでなく、コミュニケーション能力の向上を図る。
学校開放施設整備事業	
スポーツ少年団活動の充実	

3 令和4年度末実績の点検及び評価

社会体育施設整備事業	今年度は、体育センターのLED化、引込開閉器盤の修繕工事を行った。また、社会体育施設の老朽化が著しいため、引き続きこまめな点検・修繕が必要である。
学校開放施設整備事業	小学校ごとに利用頻度が異なるので、利用状況を確認し優先順位をつけて整備を進めていきたい。 備品について、多目的支柱を購入し、南加積小学校、相ノ木小学校、白萩西部小学校へ配備した。
スポーツ少年団活動の充実	今年度は、感染症対策を講じながら、4年ぶりにスポーツ少年団交流会を開催した。来年度以降も継続して開催し、日頃競技のみでしか交わらない団員同士の交流の機会を提供し続けていきたい。